

東京放射線

Tokyo Association of Radiological Technologists

2024年
2月号
Vol.71 No.824

巻頭言

進化の時 関 真一

会 告

第21回ウインターセミナー
2023年度城南支部研修会
2023年度第1回災害対策研修会

お知らせ

2023年度第12地区研修会
2023年度第6地区研修会
2023年度第9地区研修会

新春企画

2024年新春座談会

新連載

SR推進委員会 座談会 「災害対策マニュアルの作り方を学ぼう」
第一部「災害対策マニュアルを作ろう」

研修会等申込書
登録事項変更届



公益社団法人東京都診療放射線技師会
<https://www.tart.jp/>

スローガン

チーム医療を推進し、
国民及び世界に貢献する
診療放射線技師の育成

2024
FEB

CONTENTS

目次

診療放射線技師業務標準化宣言	2
巻頭言 進化の時	3
会告1 第21回ウインターセミナー	4
会告2 2023年度城南支部研修会	5
会告3 2023年度第1回災害対策研修会	6
会告4 第76回定期総会での表彰(勤続20年)について	7
お知らせ1 2023年度第12地区研修会	8
お知らせ2 2023年度第6地区研修会	9
お知らせ3 2023年度第9地区研修会	10
お知らせ4 2023年度第16地区研修会	11
お知らせ5 会費納入のお願い	12
お知らせ6 東放技会員所属地区のご案内	13
新春企画 2024年新春座談会	14
新連載 SR推進委員会 座談会 「災害対策マニュアルの作り方を学ぼう」	
第一部「災害対策マニュアルを作ろう」	26
こ え	
・練馬まつり2023体験記	飯塚雅子、茨木裕美、西郷洋子 32
・中央区健康福祉まつりに参加して	根本祐子 34
・OTAふれあいフェスタ体験記	北山和輝 35
・大田区OTAふれあいフェスタに参加して	後藤あかり 35
・「大田区OTAふれあいフェスタ」に参加して	牧田隆太郎 36
・「東村山市民健康のつどい」に参加して	土屋由貴 37
パイプライン	
・超音波画像研究会 エコセミナー	38
・日本診療放射線技師連盟ニュース(2023 No.12)	39
2023年4月～12月期会員動向	40
2023年度第8回理事会報告	41
研修会等申込書	46
登録事項変更届	47

Column & Information

・東放技入会無料のお知らせ	31
・東放見聞録	40
・学術講演会・研修会等の開催予定	44

診療放射線技師 業務標準化宣言

いま我が国では「安心して安全な医療の提供」が国民から求められている。そして厚生医療の基本である「医療の質の向上」に向けて全ての医療職種が参加し、恒常的に活動をする必要がある。

私達が携わる放射線技術及び医用画像技術を含む診療放射線技師業務全般についても、国民から信頼される普遍的な安全技術を用いて、公開しなくてはならない。そして近年、グローバルスタンダードの潮流として、EBM (Evidence Based Medicine)、インフォームドコンセント、リスクマネジメント、医療文化の醸成、地球環境保全なども重要な社会的要求事項となっている。

公益社団法人東京都診療放射線技師会では、『国民から信頼され選ばれる医療』の一員を目指し、診療放射線技師の役割を明確にするとともに、各種業務の標準化システム構築を宣言する。

診療放射線技師業務標準化には以下の項目が含まれるものとする。

1. ペイシェントケア
2. 技術、知識の利用
3. 被ばく管理（最適化／低減）
4. 品質管理
5. 機器管理（始終業点検／保守／メンテナンス）
6. 個人情報管理（守秘／保護／保管）
7. 教育（日常教育／訓練／生涯教育）
8. リスクマネジメント
 - ～患者識別
 - ～事故防止
 - ～感染防止
 - ～災害時対応
9. 環境マネジメント（地球環境保全）
10. 評価システムの構築

公益社団法人東京都診療放射線技師会

巻頭言



進化の時

副会長 関 真一

会員の皆さまには、本会に対してご協力ご支援をいただき厚く感謝申し上げます。

さて、年が明けて早いもので節分・立春の季節であり、本年は大変あたたかい気候であります。いよいよ春の到来を待ちわびる頃となりましたが、会員の皆さまにはお変わりはありませんでしょうか。

思えば、2020年2月にクルーズ船のダイヤモンドプリンセス号で乗員乗客にクラスターを生み、日本で大きく問題視されてからすでに4年近くが経過します。私の勤務する施設も早い時期にクラスターが発生して3週間、外来と救急の受け入れを中止して休診となりました。当時は、PCR検査もできず、患者搬送も受け入れてもらえず自分たちの力で行いました。その後、私たちを混乱に陥れた第8波の収束を迎え、現在は感染症5類に移行しました。この4年間で私たちは、大変苦しい思いをしてきましたが、経済学などで用いられているニュー・ノーマルという言葉が一般化し、少しずつではありますが前進をしてきました。その一つにリモートというツールを手に入れたことが挙げられます。これにより、広く会員が情報を得ることができるようになりました。本会としてもリモートを活用した研修会を順次開催してきました。特に、第37回日本診療放射線技師学術大会2021を東京ビッグサイトで、初めての試みでハイブリッド形式により開催できたことは大変有意義であり記憶に残ったと思います。コロナ禍で、日々の業務のオンライン化が大きく進化した感じはありますが、本会でもこのオンラインの利点を生かして、対面であれば直接お越しいただくのは難しい遠方の先生方にご講演をいただく機会も何度か実現することができました。遠方の先生方の講演を拝聴すると、コロナ禍で抑制された人流とは対照的に、世界の潮流や最新研究の発展には著しいものがあり、その内容は一度の研修会で留めるのは大変勿体ないと感じています。

この4年間は、不自由の中での会務だったと思いますが、本会としては、これで本会の活動や学術活動の後世への技術継承を遅らせるわけにはいかないと強く思っていました。そのためにも、会員の皆さまへの有意義な情報の発信を行っていきます。昨年から対面開催が復活したペイシエントケア学術大会は、とても重要と考え少しでも良い形で開催できるように実行委員が準備を進めています。医療の現場の最前線に立たれている会員の皆さまにおかれましては、苦しい環境がまだまだ続きますが、本会の使命を果たすことで、必ずや将来の放射線技術学の礎を築くものと信じています。ニュー・ノーマルな時代の変化に対応していくために、ぜひとも一緒に時代の進化に向かって進んでいきましょう。

ここで何回か述べた、“進化”について調べてみると「生物が周囲の条件やそれ自身の内部の発達によって長い間にしだいに変化し、種や属の段階を超えて新しい生物を生じるなどすること。一般に体制は複雑化し機能は分化していく。また、無機物から有機物への変化、低分子から高分子への変化などについても用い、拡張して星の一生や宇宙の始原についても用いられる」となっています。本会も、入会促進活動推進による会員数増加、放射線相談の情報共有と広く都民の相談に対応する、時代に即した規程の見直し、公益目的事業の規模拡大など、進化に向かっていきたいと思います。また、本年度は役員改選、代議員改選の年でもあります。ぜひ、会員諸氏に立候補いただき活発な技師会に進化したいと思います。皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いします。

第21回ウインターセミナー テーマ「一般撮影の画像処理と最新情報」

講師：キヤノンメディカルシステムズ株式会社 伊藤 琢也 氏
コニカミノルタジャパン株式会社 林 哲平 氏
富士フイルムメディカル株式会社 坂本 真俊 氏

一般撮影の画像イメージ処理方法について、各メーカーの方から解説をしていただきます。

基本的にはオートマチックで画像処理が行われていますが、撮影体位や撮影位置によっては適正な画像処理が行われないこともあります。読影しやすい画像作成のための処理方法について皆さまと一緒に情報共有したいと思います。そして、各メーカーによる最新情報についても伝えていただきます。

会場型対面形式にて開催を致します。参加費については、当日会場受付にて徴収致します。

参加者の皆さまが安心して参加できるよう、感染予防対策を講じて開催致しますのでご協力をお願いします。

記

日 時：2024年2月3日（土）15時00分～17時00分

場 所：東京医科大学病院 自主自学館3階 大教室

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1

ア ク セ ス：東京メトロ丸ノ内線 西新宿駅下車 2番出口 または E5番出口よりすぐ

都営大江戸線 都庁前駅下車 A7番出口より徒歩約7分

受 講 料：会員 1,000円、非会員 5,000円

新卒かつ新入会員※ 無料

申 込 方 法：東放技ホームページ (<https://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

定 員：100名（先着順）

カウント付与：日本診療放射線技師会学術研修2.0カウント付与

問い合わせ：学術委員長 市川篤志 E-Mail：gakujitu@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

※ 新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう。

2023年度 城南支部研修会 (Web開催)

今回は、私たち診療放射線技師にとって必須の知識、一般撮影と被ばく相談について、日本診療放射線技師会 骨関節撮影分科会と放射線被ばく相談員分科会から、分科会長を講師にお招きして活動や最近のトピックスなどを講演いただきます。

講演1 「一般撮影を組み立てる」

講師：JART骨関節撮影分科会 分科会長／清水赤十字病院 中川 英之 氏

講演2 「放射線被ばく相談員分科会の紹介と活動、最近のトピックス」

講師：JART放射線被ばく相談員分科会 分科会長／群馬県立県民健康科学大学 五十嵐 博 氏

- ・一般撮影の経験が浅い方
- ・久しぶりに一般撮影に配属された方
- ・定年後の再就職を検討している方
- ・仕事にブランクのある方
- ・他施設との交流がなく我流ではないか？ と思われる方

お心当たりのある方、ない方も、是非ご参加ください。

Zoomを利用した講演ですので、遠方からのご参加も歓迎しています。

非会員の方でもご興味のある方はぜひご参加ください。

オンラインは、Zoomの利用となります。セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、Zoom最新バージョンをダウンロードの上、ご参加ください。参加人数に上限がありますので早めにお申し込みください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。

本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2024年2月20日（火）19時00分～21時00分

開催方式：Web開催（Zoom）

受講料：無 料

申込方法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2024年2月13日（火）

問い合わせ：城南支部委員会 E-Mail：shibu_jyounan@tart.jp

第15地区委員長 原子 満（城南支部委員長）

第4地区委員長 上田万珠代

第8地区委員長 大津 元春

第11地区委員長 名古 安伸

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務局

TEL・FAX：03-3806-7724

以上

2023年度 第1回災害対策研修会

テーマ「緊急被ばく医療研修会 ～3.11を風化させないために～」

主催：公益社団法人東京都診療放射線技師会 SR推進委員会

講師：SR推進委員会委員

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故にあたり、公益社団法人東京都診療放射線技師会では、発災直後の被災地におけるサーベイ活動、都内避難所における放射線サーベイボランティア活動など、放射線専門の職能団体として活動を行いました。これらの活動・経験を語り継ぎ風化させないために、また、サーベイヤの育成を継続するため本年度も研修会を企画しました。

本年度はクイックサーベイ実習を行います。皆さまのご参加をお待ちしております。

プログラム

～3.11の経験とその後の対応を踏まえて～

1. 緊急被ばく医療（原子力災害時医療）について
2. クイックサーベイ（概論）
3. クイックサーベイ（実習）

記

日 時：2024年3月9日（土）13時00分～16時30分（受付開始：12時30分～）

場 所：公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センター

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションプラザタワー505

ア ク セ ス：JR日暮里駅北口改札 東口方面より徒歩3分

定 員：20名（先着順）

受 講 料：会員 1,000円、非会員 5,000円（当日徴収）

申 込 方 法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

カウント付与：日本診療放射線技師会学術研修3.0カウント付与

問い合わせ：SR推進委員長 渡辺靖志 E-Mail：saigai@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

第76回定期総会での表彰（勤続20年）について

渉外委員会

本会は2024年6月に行われる、公益社団法人東京都診療放射線技師会 第76回定期総会において、本会表彰規程により労働精励賞の表彰を行います。

本年度資格到達者は本会で調査し、対象になっている会員の方にすでに案内を発送しております。調査漏れが生じることもありますので、下記に該当される方で、未だ本会より連絡のない方、または前年度までに資格到達された方で受賞の意思のある方は、お手数ですが2024年2月23日までに下記問い合わせ先までご連絡くだされば幸甚に存じます。

規程内容要旨：

- (1) 今回の該当者は2004年3月31日までに、診療放射線技師の免許を取得し、技師業務に20年以上従事した方が対象である。
- (2) 2010年3月31日以前に入会し、引き続き本会会員であって、会費を完納していること（15年以上継続会員）。
- (3) 現在正会員であり、引き続き2024年度も会員であること。

問い合わせ：渉外委員長 高野修彰 E-Mail：shougai@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

お知らせ 1

2023年度 第12地区研修会 (Web開催)

テーマ「整形外科医に聞く 骨粗鬆症における画像解析の必要性 ～DEXA法、CT画像再構成～」

講 師：東大和病院 整形外科科長 山岸 賢一郎 先生

現在、高齢化社会が進むなか骨粗鬆症患者が1,000万人を超えるといわれ、社会問題のひとつとなっています。日々の業務でも椎体骨折、大腿骨近位部骨折などに高い頻度で遭遇しているはずです。その原因のひとつである骨粗鬆症を予防するためには、骨質、骨量から骨の強度を把握するDEXA法が欠かせません。「骨密度なんて誰でも撮れるだろ」と軽く考えていませんか？

普段、「骨折をした」ときの画像診断が注目されがちですが、今回、「骨折をしない」ための予防医学に必要な画像解析に注目して、DEXA法を中心に、整形外科医師の視点から詳しく解説していただきます！

整形外科領域にとって画像診断は欠かせないものであり、われわれの撮影した画像がいかに必要とされ、治療に活用されているかを知る貴重な時間になるはずです。新人の方からベテランの方まで、技術の会得や知識の再確認のためにも、皆さまの参加をお待ちしております。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。
本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2024年2月8日（木）19時00分～20時00分

開催方式：Web配信（Microsoft Teams）

定 員：50名（先着順）

受講料：無 料

申込方法：東放技ホームページ (<https://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2024年2月4日（日）20時00分

問い合わせ：第12地区委員長 吉村 良 E-Mail：area12@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

2023年度 第6地区研修会（Web開催）

テーマ「骨粗鬆症診療の夜明け」

～胸部X線から骨の状態を評価するAI医療機器による社会的インパクト～

講 師：iSurgery株式会社 代表取締役／名古屋大学大学院医学系研究科 客員研究員
医師 佐藤 洋一 先生

近年、AI技術の進歩がみられ、人工知能が私たちの生活に欠かせないものとなってきています。こうした技術が医療にも導入されており、医療放射線分野においても撮影技術や画像処理に活用されるものが増えてきています。われわれ診療放射線技師にとってAI技術は、業務に欠かせないものとなってくるかもしれません。

現在、日本における骨粗鬆症患者は約1,300万人とされています。しかしながら、骨粗鬆症検診受診率は低いと早期発見が難しく未治療の患者さんも多くいるといわれております。こういった状況を解決するために、日頃見なれている胸部X線から骨の状態を評価できるAI技術をご紹介します。

エッ!? と驚く方もいらっしゃるでしょう。まさに放射線検査の在り方を考えさせられるご講演になるのではないのでしょうか。新人からベテラン技師の方まで、最新技術の知識を得るためにも皆さまのご参加をお待ちしております。

オンラインは、Zoomの利用となります。セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、Zoom最新バージョンをダウンロードの上、ご参加ください。参加人数に上限がありますので早めにお申し込みください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。
本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2024年3月1日（金）19時00分～20時30分

開催方式：Web開催（Zoom）

定 員：50名（先着順）

受講料：無 料

申込方法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2024年2月26日（月）

問い合わせ：第6地区委員長 伊佐理嘉 E-Mail：area06@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

お知らせ 3

2023年度 第9地区研修会 (Web開催)

テーマ「STA(R)T 画像」 ～これから始める緊急時画像報告～

講 師：国立病院機構水戸医療センター 田中 善啓 先生

STATとは画像診断において、診療放射線技師が撮影後の画像初見を医師に伝えることです。本来、読影は放射線科医が行いますが、特に緊急性が高い場合は、最初に画像を目にする診療放射線技師が初見を判断し医師へ報告することで、より早い診断や治療に繋がります。この対応の早さが、患者の生死を分ける場面もあるでしょう。今後より多くの医療機関でSTATが導入されることで、医療現場において迅速かつ正確な診断と治療のための重要なツールとなることが予想されます。しかしまだ浸透が浅く、STATを導入したいがその方法が分からないという声を多く聞きます。今回、STATの学習方法と導入方法を中心に詳しく解説していただきます。

オンラインは、Zoomの利用となります。セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、Zoom最新バージョンをダウンロードの上、ご参加ください。参加人数に上限がありますので早めにお申し込みください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。
本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2024年3月8日（金）19時00分～20時30分

開催方式：Web配信（Zoom）

受講料：無 料

定 員：80名（先着順）

申込方法：東放技ホームページ (<https://www.tart.jp/>) の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

※参加者にはパスワードを返信致します。

申込締切日：2024年2月29日（木）

問い合わせ：第9地区委員長 西郷洋子 E-Mail：area09@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

2023年度 第16地区研修会 (Web開催)

テーマ「2023年度 インシデント・アクシデント報告」 ～MRI検査中の、急変対応事例報告～

講 師：三郷中央総合病院 松村 裕太
第16地区委員長 関谷 薫

本年度の第16地区研修会も、昨年度に引き続き、インシデント・アクシデント報告に関する事例報告をさせていただきます。

第1部は、昨年度同様に本年度発生したインシデント・アクシデント報告全般に関して、どのように発生したか、その後どのような対策を実施したかを、地区委員長より数例報告させていただきます。

第2部では、昨年度はMRI検査における吸着事例を中心に報告をしましたが、本年度は、MRI検査中に発生した被検者の状態急変事例を、検査を担当していた診療放射線技師に報告をしていただきます。

情報共有させていただくことにより、皆さまのご施設での安全管理に少しでもお役に立てれば幸いです。

開催形式は、ZoomによるWeb開催予定です。セキュリティ対策としてパスワードを設置するなどして対策を講じます。不正利用などのリスクを回避するために、Zoom最新バージョンをダウンロードの上、ご参加ください。

ご参加の際は必ず申込者名でご入室ください。申込者名でない場合はご退出いただく場合があります。
本セミナーの映像、配布資料などの録音、録画（キャプチャを含む）、再配布は禁止と致します。

記

日 時：2024年3月22日（金）19時00分～20時30分

開催方式：Web開催（Zoom）

受講料：無 料

定 員：100名（先着順）

申込方法：東放技ホームページ（<https://www.tart.jp/>）の参加申し込みフォーム、または会誌の研修会等申し込み用紙にて事務所にFAXでお申し込みください。

申込締切日：2024年3月15日（金）

問い合わせ：第16地区委員長 関谷 薫 E-Mail：area16@tart.jp

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

以上

お知らせ 5

会費納入のお願い

経理委員会

会員の皆さまには、平素より東京都診療放射線技師会の活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。本会は皆さまの会費によって運営されております。スムーズな会務運営のためご協力いただきますようお願い致します。

さて、会費納入期限は、9月30日となっております。お忘れの方は、下記の事務所まで問い合わせいただきますようお願い致します。

なお、会費未納期間2年以上の会員については、退会の手続きを致しておりますのでご注意ください。

令和6年度の会費を減額しています

◆ 60歳から64歳	10,000円	→	7,000円
◆ 65歳から69歳	10,000円	→	3,000円
◆ 70歳以上	10,000円	→	0円

諸先輩方へ：長い間の技師会活動の経験を若い世代に、ぜひ継承してください。
どうかご指導よろしくお願い致します。

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所 TEL・FAX：03-3806-7724

JARTにおいて会費未納除籍者に債権回収委託を開始

日本診療放射線技師会（JART）の理事会において、未収会費の収納代行委託に関する議案が可決され、日本診療放射線技師会会費については、2022年4月1日付で会費未納による除籍者より債権の回収委託を開始しています。

JARTでは、定款第8条で「会員は（中略）会費を納入しなければならない」と定めており、同じく第9条3項では「2年以上の会費未納入の場合には会員資格の喪失」と記載されております。また入退会等に関する規程第2章第2条、会費納入規程第2章第2条、第3条および第3条2項によって会員は会費の納入義務を負っております。これまでは、再入会申し込みの際に、これらの規程についてご理解を頂くまでに労力を費やしておりましたが、今後は明確化できるものと考えております。

また、東京都診療放射線技師会の会費につきましても、合算請求のため未納会費を回収委託する対応にしております。会員の皆さまにおかれましては、ご理解ご協力よろしくお願い致します。

お問い合わせ：公益社団法人日本診療放射線技師会 財務担当
E-Mail：info@jart.or.jp

あなたはご自分の所属地区をご存じですか？

東京都診療放射線技師会は、東京を13の地区に分け、東京に隣接する千葉方面・神奈川方面・埼玉方面を加えた計16地区で構成されています。

本会ホームページ <https://www.tart.jp/> には各地区の表が掲載されています。

“当会の概要” から“支部・地区一覧表”をお選びください。



公益社団法人
東京都診療放射線技師会

一般の方へ 当会の概要 入会案内・各種手続き 研修会・イベント情報 求人情報 お問い合わせ

HOME > 当会の概要 > 支部・地区一覧表

支部・地区一覧表

東京都診療放射線技師会では、東京を13の地区に分け、東京に隣接する神奈川・千葉・埼玉を加えた計16地区で構成し、技師会をより多くの診療放射線技師の皆さんに、また一般の方に「診療放射線技師」を知っていただこうと日々活動をしています。

各地区紹介ページ

城東支部	第1地区	千代田区	地区紹介
	第2地区	中央区、台東区	地区紹介
	第7地区	墨田区、江戸川区、江東区	地区紹介

地区紹介PDF

また、“地区紹介PDF”では各地区の特色や活動を写真入りで紹介しています。
こちらもぜひご覧ください。

情報委員会

2024年 新春座談会

診療放射線技師の 未来を考える



中澤靖夫

名誉会員・顧問

〔東放技会長歴〕

1994年4月～2011年3月



篠原健一

顧問

〔東放技会長歴〕

2011年4月～2022年6月



江田哲男

会長

〔東放技会長歴〕

2022年11月～現在

はじめに

浅沼編集委員長：新年あけましておめでとうございます。

一同：あけましておめでとうございます。

浅沼編集委員長：編集委員会委員長の浅沼でございます。2024年の新春座談会は、顧問お2人と現会長をお招き致しました。会長歴の古い順から、中澤靖夫名誉会員・顧問、篠原健一顧問、そして江田哲男現会長でございます。では皆さま、どうぞよろしくお願い致します。

一同：よろしくお願いします。

浅沼編集委員長：今日のテーマは「診療放射線技師の未来を考える」ということで、会長をお務めになられた皆さまから、われわれ後輩たちにぜひご指導いただけるような強いお言葉を期待しております。大きなテーマですので、具体的

に、現状行われています業務拡大に伴う診療放射線技師の将来と、われわれ公益社団法人東京都診療放射線技師会（東放技）が今後行わなければいけない活動、もしくは宿題、課題などを軸にお話しいただければと思います。まず中澤顧問、このテーマについてご意見をよろしくお願い致します。

業務拡大に伴う診療放射線技師の将来と 東放技の役割

中澤顧問：業務拡大に伴う診療放射線技師の将来と東放技の役割ということですが、将来を考える時には、やはり現在の時点、現実、現在進行形で行っている事業全体を見直すということも必要だと思いますし、現在が生まれているのは、実は過去の歴史の積み重ねによって現在が生まれているという考えであります。現在は過去の

娘であり、未来の母であるという視点から考えると、過去・現在・未来という視点で捉えないと、この課題はうまく捉えることができないのではないかと考えております。

そういう視点から見ると、私が2010年に公益社団法人日本診療放射線技師会（日放技）の会長就任後、チーム医療推進の視点から、われわれ技師の業務拡大の活動を厚生労働省の委員会の中で行ってきました。最初にわれわれが業務拡大したのは、2014年のCT・MRI検査時の造影剤の投与、投与後の抜針・止血、下部消化管の肛門からのカテーテル挿入、画像誘導放射線治療に関する業務、胸部検針業務における医師の立ち会いがない場合の条件の策定。あるいは2017年に、医療法の改正により委員会でも最終的に診療放射線技師も医療放射線安全管理責任者を担えることになりました。また、2019年からは、タスク・シフト/シェアの推進検討会を開始していただいて、われわれは静脈路の確保、RI検査薬品の注入、動脈路に接続する造影剤注入器の接続、撮影部位の確認、検査オーダーの代行入力と、あとは異常所見が認められた場合の医師への報告について認めていただいたという歴史があります。

従って、法律改正に関する事業においては日放技の決定したことを、われわれ東京都診療放射線技師会は忠実に履行して、会員一人一人をサポートしながら研修会への参加を呼び掛け、その受講率を上げていくということと、臨床実習指導者の質のレベルを上げていくということが求められていると思います。現状の告示研修・教育研修の成果を評価し、さらに国民や医療関係団体が私たちに何を求めているかを分析し、



その時代のニーズにこたえる政策を立案し、提案していく必要があります。このような視点から、未来を考えていくということになるかと思いますが、未来については、また皆さんといろいろと話したいと思いますが、篠原顧問、いかがでしょうか。

篠原顧問：今、業務拡大をメインにお話しされましたが、現在進めている告示研修、この修了者を増やすのは、もちろんのことだと思うのですが、実際に医療の現場で拡大された業務を担っているケースはまだ少ないと聞いていますので、2021年の告示後の2022年度以降に入学した学生が、これから2年後ぐらいに卒業する2025年度ぐらいまでには実働の割合を増やす意識付けが必要だと思います。医療の現場で拡大された業務を診療放射線技師さんがやっていますというのはあまり聞かないので、まだ少ないと思うのです。

その上で、業務拡大に伴う将来ということですが、私の好きな言葉で「未来からの投影」という言葉があるのですが、あるべき姿から現在に投影して、今しておくことを考えるというものの考え方で、その想像力といったものも大事だと思っています。ただ、未来のためにか、将来何をもっていうことであまり大上段に振りかぶり過ぎると、判断を間違える可能性もありますので、業務範囲というのは、ただ単に拡大すればいいというものでもないと思いますし、未来は変わればいいというものでもないと思いますので、変わらなければいけないこともあるし、変えてはいけないこともあるというふうに思っています。

浅沼編集委員長：ありがとうございます。両顧問

から過去・現在・未来と、物事を接続をもって考えるという貴重なご意見を頂きました。江田会長、いかがでしょうか。

江田会長：まずはお忙しい中、本会のためにこの新春座談会にご参加いただきましたことを御礼申し上げます。先ほど中澤顧問からもお話があったように、私も、過去・現在・そして未来、この3つの点を合わせて1つのラインとして捉えております。過去においては、日放技会長時代の中澤顧問の下で共に仕事をさせていただいて、その指導力や行動力は大変勉強させていただきました。本会理事にはその時代を共に活動していた仲間も多くおり、本会の事業も順調に運営ができております。なかでも現在、本会が開催している告示研修は、全国的にもトップクラスの回数を行い、多くの修了者を輩出しています。この事は、優秀なファシリテーターの方々が業務拡大の重要性を感じ、積極的にご協力をいただいた結果だと思います。こういった事業への協力があることは、非常に東放技の組織力を感じています。

今回の技師法改正では、今までグレーゾーンだったところがクリアにされた事は、中澤顧問が行ってきた礎があったからこそ、この状況になったのかなと思います。

具体的には造影剤の投与や動脈インジェクター装置の扱いなどに関しては、今回の法改正において新しく明文化された行為となったことは嬉しく思います。今後は、静脈確保やIVR時に医師の横に付いて医師を手助けする行為等を積極的に実施しなければいけないのではないかと私は感じています。医師の働き方改革に伴うタスク・シフトを考えるとIVRに関しては、

非常にそのニーズは高いと思います。

新しくタスク・シフト/シェアされる業務について、技師会としても率先して、導入までのプロセスづくり等を提供できればいいなと感じております。

中澤顧問：そうですね。われわれが全国の技師会と連携しながら業務拡大を勝ち取ってきたその成果をきちっと臨床の現場で普及させていくということが大事です。まだ静脈路の確保などを十分に診療放射線技師が行っていない施設・医療機関などがあるということです。これは東放技も日放技と連携しながら、各医療機関に対して診療放射線技師は法律によって静脈路の確保、あるいはIVRにおいては、こういうことができるようになりましたので、ぜひご協力、ご支援をお願いしたいということと、技師長さんたちのクラスにも仕事量が増えるということに対しての説明責任もあると思います。技師の現場では労働の対価というものが必要になりますが、そこも含めて技師会がサポートしていくということをやっていないと、せっかく勝ち得たものが普及しない。

例えば、医療放射線安全管理責任者は医学放射線学会からの反対がありましたが何とか突破して勝ち得たわけですので、この普及に関しても、知らない病院長さんたち、病院管理者たちがおられるかもしれないので、それも定期的に医療の皆さんにご理解いただくことで、診療放射線技師が医療放射線安全管理責任者になって、さらにその上を統括している医療全体の安全管理責任者にもなっていくという過程が当然あると思うのです。

慶應義塾大学では、診療放射線技師の方が医療安全室の責任者になってやっておられたという事例もありますので、1つの大きな法律上の改正によって自分たちが勝ち得た医療放射線安全管理責任者についても普及させていくということが大事かと思います。そのためには東放技も日放技と連携しながらやっていないと。各医療機関全体では、まだ診療放射線技師について昔のままの、「はい、息を吸って。止めてください」というだけの技師さんだと思ってる病院長もおられるかもしれません。会誌もせっかくあるわけですので、技師はこんな仕事もできる





ようになったんですよということを、漫画チックなものを作ってもいいと思います、そういうかたちで宣伝していかないと。病院長そのものが理解してないと、技師さんでもそういうところがあるので、ぜひやっていただきたいと思います。

あと、われわれが進めてきた事業の中で、医療放射線の低減施設というものを認定してきました。私がお預かりした時には20病院ぐらいいしかありませんでしたが、私が引退する時には、70いくつまで増えました。これが東京都の中に何施設あるのかということを東放技でもチェックして認定施設を増やしていくということも、この医療放射線安全管理責任者とも関係しています。例えば、岡山の倉敷中央病院でJCIの認定（国際医療機能評価：Joint Commission International）を取りましたが、その時に高く評価されたのが医療被ばく低減施設の認定を取得している、ということでした。この事実を熊代前副会長が全国でお話ししてきましたが、そこも含めて、世界の標準であるJCIと医療被ばく低減施設というのはとても評価されているんだというこの事実を全国の技師長さんたちに知らしめていかないと、これは増えていかなさと思うのです。ですから、診療放射線技師は医療の質の改善のためにこんなに努力をしていて、これは世界標準でもあるということを皆さんで普及させていかないと、ちょっともったいないと思います。

篠原顧問：業務拡大については、中澤顧問からも医師・看護師さんなど、他職種の理解がないと、という話が出ましたが、確かにそれもあり

ますよね。われわれの業務範囲が広がったということをしっかり認知していただいて、それで任せてもいいという気持ちになってもらうということが大事ですが、われわれ自身が、ただ単に業務拡大したということを一種の権利のように思っているだけで、これもできるようになったよという権利の部分ばかりで、実は責任が重くなったんだということを理解しなければなりません。そのくらい意識が強くないと、他の職種に胸を

張って「われわれもできます」ということは言えないと思うので、告示研修はもちろん大事で、受講者数を増やすのは、先ほども言ったようにとっても大事ですが、それプラスその意識を高める。それはやはり技師会の役割なのかなというふうに思っています。

江田会長：篠原顧問の意見に全く同感です。私は告示研修の開会と閉会の時に挨拶をしています。開会の時には「楽しみながら告示研修をやってください、私もとても楽しかったです」というような話をしますが、研修修了時には「資格というのは、そこに責任が発生しているという認識を皆さん強く持ってください」と伝えています。

中澤顧問：おっしゃる通りです。

江田会長：あとは施設に戻ったら、必ず医療安全からみた運用マニュアルづくりを実施してくださいということをお願いしています。運用マニュアルは自分たちを守る武器にもなるものなので、必ず自分たちの手で作成する事を勧めています。

中澤顧問：そうですね。

組織率向上のための東放技の課題と取り組み

中澤顧問：東放技の組織率を見ると、残念ながら、まだ非常に少ないところがあります。今、三十数パーセントですか。40いきましたか？

篠原顧問：40は超えたんじゃないですか。

江田会長：41パーセントです。

中澤顧問：41パーセントいきましたか。じゃあ、少し上がってきましたね。

江田会長：本当におかげさまで、徐々に右肩上がりでずっと来ています。現在、理事会時に中澤顧問時代の日放技と同様に毎月の入会状況を必ず提示するように致しました。

中澤顧問：出してましたね。

江田会長：現在、庶務の宇津野理事に依頼し、必ずグラフ化したものを出してもらい理事の方々に視覚的に認識してもらっています。現在、入会促進委員会を新たに設立し、中尾委員長が中心になってアクティブに動いてもらっています。今、入会促進フライヤーの作成とホームページ内の入会促進ページの作成に取り組んでいます。

中澤顧問：いいですね。

浅沼編集委員長：ちょうど会員数のお話が出ましたが、江田会長になってから規程の改正、そして入会促進について、われわれ理事会を中心にとっても活動的に動いています。江田会長が進めて、理事会決定から臨時総会まで開催した流れがありますので、江田会長ご説明いただけますでしょうか。

江田会長：会費減額に関しましては2023年2月に臨時総会を開き、時限的措置ではありますが会費を軽減するというで行っています。これも強い武器にして、入会促進に向けて事業展開をしているところです。

中澤顧問：ぜひ時限的な施策ではなく、中長期的な施策として会費のあるべき値段・価格設定というのを見直すべきじゃないでしょうか。時限的な期間が去る前に、会費のことに関する新たな提案を。今、1万円ですか。

浅沼編集委員長：1万1,000円から1万円になりました。

中澤顧問：その価格設定の根拠をもう一度組み立て直してみてもいい。事務所も購入できて維持できるような時代になり、コストパフォーマンスが非常によくなりました。その部分でも会費の負担を下げるということを含め

て、会費のあるべき姿を、しっかり中長期的に値段・価格設定を検討したらいかがでしょうか。これは非常に大きなハードルでもあるし、入会率促進につながっていく大きなキーですので、ぜひ一度考えていただきたいです。

浅沼編集委員長：ご意見ありがとうございます。

江田会長：ありがとうございます。

浅沼編集委員長：篠原顧問、その辺の件で、会長時代からを含めてご意見ございますか。

篠原顧問：会員増というのは、いろいろな方策があると思います。会費減免もそうですし。過去の統一講習会とか、それから現在の告示研修による会員増というものもあると思います。それはもちろん大事ですが、棚ぼた的な会員増に終わらないように、頼らないようにする方策というのは、あとは消費税減税のように、もちろん下げれば、皆さんうれしいかもしれませんが、前からいる人と新たに入る人ではその辺の感じ方も違うと思うので、中澤顧問がおっしゃったように、その時代とか、あるいはその状況の中での確な会費設定を常に考えていくというのは大事なことだと思います。こういうことをやった方が、という具体的なことを言うのはなかなか難しいですけども、入会動機の意識改革というのは常に必要かなというふうに思います。

江田会長：私も入会促進では、会費というのは非常に重要なファクターだと考えています。ただ、会費というのは、入会時の動機付けとしては確かに強い武器になるのですが、もう一つ重要なことは、会員である事を継続させるということがあると思います。そのためには、東放技が魅力ある組織である事を見せていかなければと考

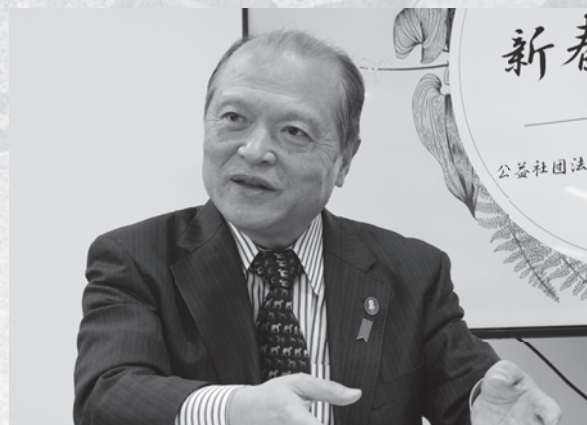


えています。会に入って本当によかったなと感じさせるような、そこを今、本会でいろいろ勘案しているところです。振り返ってみて、私がどうしてここまで継続して技師会に入っていたのかということを考えると、やはり職場とは違う人間関係です。業務の中で発生する付度もない、本当にフラットな世界での仲間と打ち解けるというのは、一番重要で魅力あることなのかなと思っています。そういうところをどんどん発信できればと考えています。

中澤顧問：そういうことですよね。会費だけではなく、魅力ある技師会づくりとは何かということだと思うんです。そのところをきちっと検討して、今ある東放技の組織全体を見直していく。

例えば、私も篠原顧問も非常に重要な責任を負っていると思うのですが、今ある地区制度というのは國定先生の時代に作った地区制度なんですね。それをずっと私たちも引き継いでやってきましたが、この地区制度そのものを一度見直す時期に来ているのではないかなと思うのです。公益社団法人の方々も、神奈川県にいる方も千葉県にいる方も東放技に入っているという新たな枠組みができましたので、そういう意味でも今の地区制度を見直して、今の16地区でいいのか、それとも地区を8つに分けて支部制に変えていくとか。2,600人の会員を8つに分けると400人ぐらいの状態になりますから、大きな、山梨県の会員が200人ぐらいでしょう。そうすると、山梨県2つ分ぐらいを扱っている支部長ができるわけです。重大な企画運営をやっているかないと、なかなかこの支部をまとめることはできないという新たな課題を背負うわけですが、そういうことも含めて、今のこの16の地区制度がいいのかどうか、支部制に変えていくべきかどうか。それも含めて、あくまでも目的は魅力あることに向けてやるということと、もう一つは、皆さんも同じような思いだと思いますが、診療放射線技師が国民から見るとどんな仕事をやっているのかということ、国民のためになるようにわれわれは働かなくちゃいけないということがありますので、その国民の視点というのも大事かと思います。

国民の視点というのは、一言で言うと、24



時間365日、どんな人でも最善の医療を受ける権利があるということを患者さんは思っているわけです。国民は、みんな思っています。それに対応するために、医師会をはじめ、看護協会、日本診療放射線技師会も含めて、各職能団体はその政策を練り上げています。東放技も同じです。東放技の中で同じような国民の要望があるのを受けて、支部制としてどうやっていったらいいか、地区制としてどうやっていったらいいかということで、国民の視点という政策もきちっと練っていく必要があろうかなと思うのです。

浅沼編集委員長：大変ありがたいお話ですね。

江田会長：だいぶグローバルなお話なので、勉強させていただきました。

浅沼編集委員長：私も技師会の地区委員という立場からスタートさせてもらって、それこそ先ほど江田会長がおっしゃったお友達感覚と言ったら失礼ですけど、「おまえも一緒にいろんなことやらないか」という感覚で職場とは別の先輩が誘ってくれました。見よう見まね、もしくは何も分からずスタートしたところから一つずつ物事を理解して、社会人としてそこで育ててもらったと言っても過言ではないなと思います。年齢と共に委員から委員長とか、諸先輩方にいろんな意味で私を下から上げていただいた時に、やはり人生として責任を負わされる。先ほどの業務拡大のお話ではないですが、責任を負ってそれを果たす時の喜びもそうですし、重圧もありますが、自分が与えられた仕事を完遂した時の喜びというのは非常に感慨深いものがありました。それをぜひ自分だけではなくて後輩にも経験していただきたいと思っておりま

す。私にとって、この先輩から受けた恩恵は言葉では表せないほど感謝しております。

あと、会員の推移ですが、とうとうこの年末に2,600人から、もう2,700人の会員さんに届くかというところで、江田会長としては、目標として組織率50パーセントでしたね。

江田会長：そうですね。

浅沼編集委員長：組織率向上のため、江田会長の下、入会促進委員会を立ち上げ活動を始めております。また、2年間の時限規

程ではありますが、現在は新入会費を無料にしております。この規程は期限を延長して継続していくか、更なる改正を行うべきか、期限までにきちんと検討することになります。会員の皆さまのご意見は当然ですが、非会員の方の入会しないご意見も取り入れて、良い規程になるようにしなければならないと考えます。

また、現在の会員数が増えていく様子をただ見守っていても、多分どこかで頭打ちになると思われます。

中澤顧問：そうですね。

浅沼編集委員長：何か新しい視点、もしくは、どういう感覚で私たちが勉強して、江田会長と練っていけばいいのかというのはありますか。

中澤顧問：この2,652名に達したという数字だけを見ると、増えたな、よかったなということがありますが、これをまずグラフ化することと、この2,652名の中で、どの地区が一番伸びているのかというところで、その伸びた地



■会員動向(2022年度～現在)

2022年度 会員数(人)		2023年度 会員数(人)	
2021年度末集計	2,321	2022年度末集計	2,448
2022年 4月	2,354	2022年 4月	2,477
2022年 5月	2,398	2022年 5月	2,512
2022年 6月	2,431	2022年 6月	2,549
2022年 7月	2,442	2022年 7月	2,584
2022年 8月	2,463	2022年 8月	2,606
2022年 9月	2,472	2022年 9月	2,620
2022年10月	2,481	2022年10月	2,642
2022年11月	2,488	2022年11月	2,652
2022年12月	2,495	※会費減額について 2022年12月理事会にて総会議案決定 2023年 2月臨時総会にて時限的規程承認	
2023年 1月	2,495		
2023年 2月	2,491		
2023年 3月	2,448		

区の委員長や理事さんがおられるわけだから、そのリサーチをしっかりとやる。何が魅力的だったのかといたら、告示研修だったり、『ラジエーションハウス』が魅力だったということがあるかもしれないので、もし『ラジエーションハウス』が魅力的だったならば、さらに第3話の『ラジエーションハウス』を作ってくださいというお願いをやるとか。やはりマスコミ・メディアの時代ですから、SNSを使った宣伝もやっていくとか、2,652名という数字だけではなくて、もっと見える化していく。棒グラフ化し、地区によって割り付けて、どこが一番多くて、どこが一番少ないのか。一番多いところと一番少ないところを徹底的に分析して、組み立てを直していくことをやって、具体的に取り組んでいったらどうでしょうか。

篠原顧問：あとは、増えた理由はもちろん大事ですが、やめた理由を分析するというのも大事なような気がします。日放技ではやってましたね。

江田会長：日放技はやってますね。

篠原顧問：ただ、なかなか難しいんですけど、これは。やめた理由というのを正直に回答するかどうか。

江田会長：ほとんどが回答しないで退会されるみたいです。

篠原顧問：でも、結構重要な部分だと思うんです。

増えた理由も大事だけれども、やめた理由も。

浅沼編集委員長：確かに。

篠原顧問：まあ定年退職でやめる方も結構多いと思います。

中澤顧問：多いですね、それは。そのために歯止めとして日放技も会費を下げたわけだから。東放技も下げたんですね。

浅沼編集委員長：はい、年齢別に会費を減額した規定もございます。何事もそうですけど、分析というのが非常に大事になってくるんですね。

中澤顧問：自分たち自身をよく知るには。

浅沼編集委員長：やりっぱなしはよくないということですね。

中澤顧問：やりっぱなしが実は非常に組織を弱くしているんです。私も反省してますけれども、日本診療放射線技師会の職能的な基盤を支えている診療放射線技師法の改正案を、私が日放技の会長の時の2018年3月に答申して、その年の6月の総会で承認してもらっているのですが（第2条定義、第20条受験資格、第26条疑義照会、第30条照射録記名押印保存、等）、それがなかなか実現できていないところがあるんです。総会承認をもらったけど、やりっぱなしで何も動かないというのが一番問題なんです。ですから、われわれは業務拡大をしたけれども何もしないと、われわれは何かを勝ち得たけれども、それを実行していないとなると「なんだ。あいつらって、言うだけ言って、実現してないじゃないか」と、これも非常に大きな問題になってしまう。

私が預かっていた時には、業務拡大と教育制度、指定規則というものを対にしてやってきたわけです。例えば、抜針・止血をする時には、94単位を95単位にした。さらに業務拡大した時には、95単位を102単位まで上げたわけです。この時も、医学放射線学会は猛反対でした。同じ時期にはり・きゅう師は100単位に変えましたが、その情報を伝え委員会で審議して頂いたわけですが、訴えは退けられました。そこを含めた戦いの中で、必ず業務拡大と、三年制・四年制大学の教育制度を変えていくということをやってきたわけです。こういう活動は必ず継続しなくちゃいけないと思うんです。

話を元に戻しますが、きちっと現状を分析してやっていかないと、周りを見てないようで見えますよ。「なんだ、やつらは、ただ口だけじゃないか」「せっかく何か取ったらしいけど、何もやってないじゃないか」って。これでは組織



はどんどん自分たちの足元から減びていく。これはかなり駄目です。

篠原顧問：今、中澤顧問から指定規則のお話が出ましたが、先ほどの会員の入会の理由とか退会の理由とかを考えた時に、大体職場の新人の方に入会を勧めると、どういうメリットがあるんですかっていうようなことを聞かれるんです。すごくその、自分にとっての現実での利益というか。やはりそういうものを考えるのが、まあ普通の人間はそうだと思いますが。

中澤顧問：それで普通ですよ。

篠原顧問：ただ、技師会の存在理由というのは、その場その場の現役の利益だけを追求する組織ではないと思います。これは東京都診療放射線技師会というよりも、日本診療放射線技師会の役割だと思いますが、例えば、先ほど指定規則という話が出ましたが、第2条の改定で、修業年限は3年以上となっていますが、4年以上、さらには日放技中澤会長の時代は六年制という話もありました。まずは全てを四年制大学にしましょうということが大事なというのが一つ。それから診療放射線技師法の第26条の改定。「医師または歯科医師の具体的な指示」の、「具体的な」を取るということも大事な取り組みだと思うのです。もう一つ、疑義照会の条文を追加すること。この辺りは日放技として動いていますが、地方技師会も積極的に協力してこれを進めることが、その時点での現実での利益を求める技師さんだけではなくて、われわれが国から与えられた資格をこれからどういうふうにしていこうという意識付けにも、しっかり会員の皆さんのためになる大事な取り組みかなと思います。

中澤顧問：この疑義照会というのは、診療放射線技師が医療界の中で本当の意味で地に足を着けて、2本の足で立って、仕事を確立したっていうこと。疑義照会をやることによって、初めて対等な立場で医師に対して、「先生、このオーダー間違ってますよ。私の方でオーダー入力を変更しますが、よろしいですか」という疑義照会をきちっとやっていかないと、「なんだ、やつらは。医者の方で指示待ち人間で、ただ言っとけばいいんだよ」ということになってしまう。そうではなくて、自分たちで判断して、そしてこれは適切な2方向なのか、いや、これは6方向の撮影が必要なんだと。先生は2方向で来たけど、これじゃ分からない。こういう疾患も疑われるかということで、きちっと疑義照会で返していく。これによって診療放射線技師の仕事が本当の意味で医療界の中で確立されていくので、今、篠原顧問が言ったように、疑義照会というのを診療放射線技師法の中に入れようということで、答申案ではそれが入ったわけですから、ぜひこれは実現したいんです。

浅沼編集委員長：われわれも今のままであぐらかかず、さらに勉強し専門知識をさらに高めて、医者と違う視点から医療の患者さんのためについてというお話になるのでしょうか。

中澤顧問：マーゲンの検査をやっておられる技師さんたちは、恐らく自分で疾患を見つけた時には、角度を変えて、多分枚数を増やしていると思うんです。それはその時点で、もうまさに「先生、枚数を増やしますよ」という視点があって、そして自分で増やしていくっていう技

術があるわけですから、その説明もつくっていくことです。先生からは「普通のマーゲンの検査だけでいいよ」というルーチンマークの指示があったけれども、やっている途中で気が付いて、ばばばと撮っていくっていうことが、これは一歩、疑義照会に踏み込む一つの行為なんです。技師さんがしっかり現実の画像診断補助含めて、分かっているからできることなんですよ。

浅沼編集委員長：今、私は核医学にいますが、以前は上部消化管や注腸、コロノグラフィーなどを行い日常的に報告書を作成しておりましたが、日々の勉強がとても楽しかったです。

私が未熟で気が付かなかった所見を読影医が指摘したり、術後に診断が合っていたと標本を持ってきてくれる外科医がいたりしました。そういった日々の切磋琢磨する仲間や、医師達とのディスカッションは診療放射線技師になって良かったと思う時間でありました。

只今の中澤顧問のお話を聞いて、昔の体験を懐かしく思い出したところでございます。

この学ぶことが楽しい体験は、所属が変わった後でも私にとっては有益な財産で、技師会などで手を伸ばした時に相談できる仲間がいることは、先ほど江田会長がおっしゃってありました、交流というのが継続するための大きな武器というお話は私も同感でございます。

江田会長、他に何かございますか。

江田会長：今日、改めて目からうろこだったのは疑義照会のところで、中澤顧問のおっしゃった消化管撮影時における追加撮影です。以前から



正確な診断時に必要性があると技師が判断して追加撮影を行っています。この事は、今回の法改正でも明文化されたところだと思います。私たちとしては、もっとその認識を強く持っていただければ良いかと思いました。

中澤顧問：核医学分野もまさにそこなんです。実は核医学って、医師が非常に少ないんです。そうすると、核医学の読影の補助

ができる技師さんの判断力がすごいんです。ですから核医学も追加の撮影が必要なのです。そここのところは技師の画像診断補助能力がないと、核医学検査もうまく動かないんです。

浅沼編集委員長：ありがとうございます。先輩の叱咤^{しった}激励があったので、日々これからも頑張ります。

中澤顧問：核医学もすごく重要なんです。

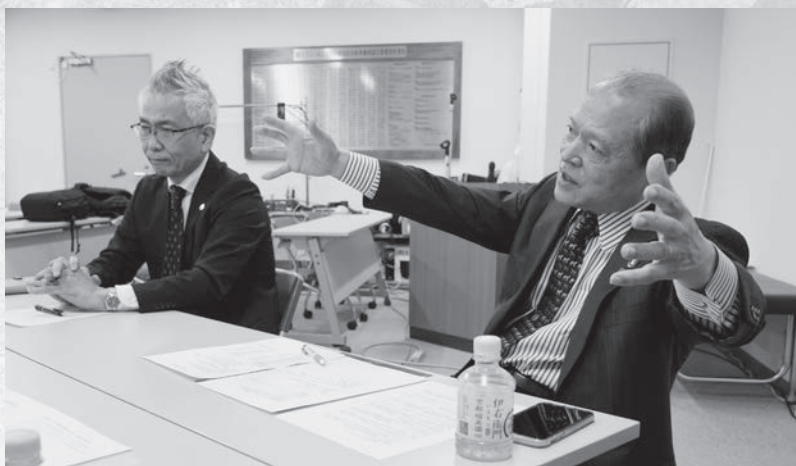
浅沼編集委員長：そうですね。われわれの判断を医師に助言する機会は非常に多いです。

中澤顧問：そうなんですよね。

江田会長：そうですね。

浅沼編集委員長：今年も新年から日々の励みになります。温かいお言葉をありがとうございます。ただ、それにあぐらをかかないように、いつまでも勉強を続けるようにしたいと思います。他に何かお話はありますでしょうか。

中澤顧問：診療放射線技師の未来、将来を考える時に、今の時代の流れの中でどんなことが求められているかというと、メディカルにおけるポピュレーションアプローチというのがあって、集団の、都市の中で果たす役割というのが非常に重要になってきていますよね。例えば、篠原顧問の奥さまは訪問看護ステーションを経営されていて、ポピュレーションアプローチがしっかりなされています。われわれ診療放射線技師も新しい時代を考えた時には、ポピュレーションアプローチの中に入っていかなきゃいけない。例えば、肺がん検診があったり、胃がん検診、乳がん検診、大腸がん検診があるわけですが、これはほとんど技師さんが関わっています。ですから、今の検診の在り方も含めて、診療放



射線技師会から新たな未来の国民に対するアプローチとして、集団を大事にしたアプローチをしていくということ。

例えば、訪問看護ステーションと訪問リハビリステーションがあったら、その中に訪問診療放射線技師も入れてもらう。訪問診療放射線技師という名称は適切かどうかは別にして、困っている人たちに対して、技師さんが胸の写真を1枚撮ってあげただけで、そこからすぐ画像を送って病院の担当の医師が判断して、こういうことをしなくちゃいけないということがすぐ分かるわけですので、診療放射線技師さんが訪問して検診をやる、あるいはエックス線撮影をやっていくということがポピュレーション、集団に対するアプローチとして、病院内にいてだけではなくて社会に出ていく、市町村に出ていくというアプローチを、もう看護師さんたち、リハビリテーションの方は、みんなやっているわけですので、技師さんもそこをやっていかなきゃいけないってことが、未来的に、私は必要だと思います。

浅沼編集委員長：難しい話ですけど、実際、この高齢化社会になって、先ほどの業務拡大もそうですけれど、結果は患者さんにどう思われて、私たちが新しく始まった業務が、やれるようになったんだじゃなくて、やった結果どうなのか。会長もおっしゃいましたが責任が発生して、責任が発生したならば喜んでもらえる結果を見いださなきゃいけないと思いますし、中澤顧問がおっしゃったように、訪問的なことをして、結局病院に行ける人は、まだましな方なのかもしれないなって視点も大切のような気がし



ますね。

中澤顧問：篠原顧問、そういうエックス線の胸の写真が欲しいという患者さんに対して、訪問看護ステーションはどんなかたちでアプローチしているんですか。

篠原顧問：うちではやっていませんけれども、でも今、訪問撮影は許可されましたよね。

江田会長：訪問撮影などは、医師がいなくても撮影が可能となりましたね。うちの病院も訪問看護をやっていますが、病院の救急車とか、施設の専門タクシーを呼んで、病院に来てもらって撮影というかたちを取っています。

中澤顧問：患者さんにね。

篠原顧問：出張撮影は、まだ多くないですけど、事業としてやっている病院はあります。

中澤顧問：ありますよね。

篠原顧問：ただ、顧問が言われたのは、診療放射線技師さんが個人で開業できるとか、そういうようなことが将来的にできた方がいいということですかね。

中澤顧問：まあ将来的には、そこまでいくかどうかというのは、またよく検討しなくてはいけないと思いますが、そういうことが可能性を含めている。

やはり国民から求められないと、そんなことはできません。今、看護師さんは求められているじゃないですか。どこへ行っても看護師さんは必要だ。診療放射線技師さんもそこを含めて、この10万都市の中に、やはりこういうところに診療放射線技師さんが必要だねっていうことを、われわれがチャレンジしていかないと、それはなかなかできない。部屋に閉じこもって、診療所に閉じこもって、病院に閉じこもって

るだけでは、診療放射線技師さんは必要とされてこなくなるかもしれない。

浅沼編集委員長：非常に耳が痛いのですが、将来、自分が老いて、病院の世話になることを考えると、そうですね。自分が今、プロでやっているからこそ、「ここで胸の写真撮ってくれ」って思うかもしれない。

中澤顧問：「写真撮ってよ、ここで」って。

浅沼編集委員長：自分が置かれた立場でよく考えてみます。ありがとうございます。

おわりに

浅沼編集委員長：では、最後に新年の個人の抱負でもいいですし、東放技についてでも結構ですので、皆さまに一言いただけますでしょうか。中澤顧問からお願いします。

中澤顧問：私としては、やっぱり東放技がものすごく大好きです。日放技もちろん大好きだけれども、東放技と日放技が連携して、もっと日本の診療放射線技師さんがよくなる。国民から求められるし、本当に素晴らしい診療放射線技師がもっと育っていくという地盤がもうできたので、その地盤の中に一つ一つ魂を入れていってあげて、それを忘れないでちゃんと成長させ、育てていく。せっかく畑に種をまいて、種が育ってきて、芽が出てきたので、それを育てなくちゃいけない。そのためには、東放技だけでは駄目なので、日放技と連携して、日本47都道府県が連携して、診療放射線技師さんはこんなに素晴らしい仕事をやっているんだということを、ぜひ一歩一歩進めていっていただきたいと思います。

浅沼編集委員長：ありがとうございます。篠原顧問、お願いします。

篠原顧問：私は、冒頭に「未来からの投影」という言葉を使わせていただきましたが、時系列同時進行的に処理しなければならないことっていうのも多いと思うのです。ただ、目先のすぐ役に立つことばかりに目を向けていると、どうしても遅くなってしまうのではないのかなと思います。

慶應義塾大学の中興の祖といわれている小泉信三先生が残した言葉で、「すぐに役に立つものは、すぐ役に立たなくなる」という言葉があります。短期的なことはもちろん重要なのですが、5年後、10年後、30年後のために職能団体というのは存在すると思います。国から与えられた資格を有する者、一人一人の診療放射線技師さんも同じ使命があるというふうに思っています。

診療放射線技師の職名に付いている「診療」というのは、患者さんに寄り添う、人と接するという意味だと私は思っております。機械とか物やモニターだけを相手にするのではないと。そして何よりも患者さんの安心、安全のために公益社団法人として、首都東京の技師会としての使命を果たすことが大切だと思っております。この意識を保ち、高めるのは、学術団体ではなく職能団体の重要な役割だというふうに思っております。

浅沼編集委員長：ありがとうございます。最後に江田会長、よろしくお願いします。

江田会長：将来的には、AI技術がもっと伸びてくると私たちの業務も縮小される可能性があります。今後は中澤顧問のお話のように、新たに外に向けて行く業務というのは重要なかなと

いうのは、改めて感じました。

この一年間、会長をやらせていただきましたが、振り返ってみると、私の中で一番楽しかったことは、区民祭りなどに参加して、生で会員の人たちや都民の方々と触れられた事です。コロナも収束しつつあり、人と接することができるのは本当に楽しいということが改めて分かりました。そこを含めて、今年は、以前のように対面を重要視して、特に公益事業をもっと活発にやっていきたいと思っています。中でも都民に向けて今年は何かやっていきたいと考えています。

浅沼編集委員長：ありがとうございました。歴代会長の中澤顧問、篠原顧問、それから現江田会長の3人をお招きして、座談会をさせていただきました。未来を考える場合のキーポイントとして、過去から現在につながっている時系列を大切にしながら物事を一つ一つ進め、出された結果を正直に受け止め正しく分析し対応していく大切なお言葉を頂きました。われわれ執行部も、江田会長の下、ぜひ2024年も新たな視点も含めて進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。本日は、皆さま、どうもありがとうございました。

一同：ありがとうございました。



本座談会開催場所、公益社団法人東京都診療放射線技師会研修センターにて



「災害対策マニュアルの作り方を学ぼう」

〔はじめに〕

会員の皆さまこんにちは、SR推進委員会の委員長を務めております渡辺です。

SR推進委員会の前身は災害対策委員会で、現在も災害対策に関する啓発活動を事業として行っております。

災害対策に関する啓発活動として、これまでは研修会を開催することが多かったのですが、より多くの会員の方と触れ合いたいとの思いから紙面をお借りすることに致しました。

皆さまのご施設には放射線部門の災害対策マニュアルが整備されていますか？ しっかり読み込んだことはありますか？ マニュアルを作成する担当の方は、「これで内容は十分」と納得できるものを作った実感はありますか？

われわれ、SR推進委員会には、それぞれの施設で災害対策の担当者や日本DMATの隊員なども多く在籍しています。この紙面では、災害対策マニュアルの作成や災害時訓練などについて、委員達の経験や知識を基に座談会形式で掲載していこうと思います。

当委員会の委員は、比較的規模の大きい施設に勤務している人が多く、読者の勤務する施設とは規模や事情が異なる内容も含まれますが、その中に自施設でも役に立つヒントが含まれていないか確認して読んでいただければと思います。

災害はいつ起きるか分かりません。平時にどれだけの準備ができていたかが、災害時の対応の明暗を分けます。この紙面を読んで、少しでも多くの会員の方が、災害時の対応は「他人事」ではなく、「自分事」として関心を持っていただければ幸いです。

SR推進委員会 委員長 渡辺靖志

第一部 「災害対策マニュアルを作ろう」

1. 災害対策マニュアル作成の前に知っておきたいこと

○文中登場者（**A**～**D**は全て異なる施設に勤務）



A

放射線部門災害対策マニュアル作成経験者、進行役



B

放射線部門災害対策マニュアル作成経験者



C

放射線部門災害対策マニュアル作成経験者



D


放射線部門災害対策マニュアルの作成については未経験者



A：放射線部門での災害時対応を考える上で、平時にできる準備について話し合っていきたいと思います。災害時と言ってもさまざまな災害がありますが、震災に限定して話を進めたいと思います。さて、災害時対応として平時に準備しておく事柄を挙げてみていただけますか？



B：私が思うには、災害対策マニュアルを作成して災害時訓練を実施する、災害時に必要な物品を準備する、などでしょうか。



C：特に災害対策マニュアルは、自分の施設にきちんと対応しているものを作成しないと意味がありません。実際に作成するのはとても大変ですね。

A：ありがとうございます。それでは今回は、「これから災害対策マニュアルを作成する」という場面から話を進めたいと思います。まず、何をしましょうか？

C：マニュアルの中に記載すべき項目の洗い出しですね。

1. 「災害時」の定義
2. 初期対応について
3. 災害時診療について
4. 職員の安否確認方法について

A：それぞれの項目についてももう少し詳しくお願いします。

C：「災害時の定義」については、災害の程度を明確にする必要があります。これは、放射線部門で決めるというよりは、病院で決められた定義に準じることになると思います。例えば、「震度6弱以上の地震が発生した場合に適用する」とか。

B：まずは病院の災害対策マニュアルを読んで理解しておくことが大前提ですね。

C：病院全体で規定されている内容と矛盾がないようにしないといけません。災害発生時から直後の初期対応についても病院への被災状況の報告方法や避難誘導方法などを踏まえて、放射線部門では具体的にどのような行動をとるのかを書き込んでいくのがいいと思います。

D：初期対応というのはどこまでのことを指すのでしょうか？

B：初期対応の定義は病院内で共有するものだと思いますが、主には「発災直後から災害対応の診療準備が整うまで」だと思います。

A：「初期対応」の項目に記載する内容を具体的に挙げると何がありますか？

B：「自分の身を守る」「患者の身の安全を確保する」「被災状況の確認」、退避が必要な場合は「避難誘導方法」などでしょうか。先ほど話した通り、どこまでが「初期対応」なのかは、病院の災害対策マニュアルと同じように区切ればいいと思います。

D：実際には、被災状況によって避難が必要かなどの対応は変わりますよね。


C：そうですね。あくまで病院で設置する災害対策本部からの指示に従うのが鉄則です。その指示に速やかに対応できるようにケースごとの対応方法を記載できれば、実際の発災時の行動もスムーズに行えます。


A：被災状況報告は病院の災害対策本部に報告する内容を把握しておかないといけません。

C：放射線部門内で把握しておきたい内容も追加しておくといいと思います。


D：避難誘導については何を記載すればよいのでしょうか？





 **C**：「いつ」「だれが」「どこへ（どの経路で）」を記載しましょう。避難場所や避難経路は図で提示してあげると分かりやすいと思いますよ。


 **B**：病院の規模によっても異なると思いますが、大きな施設であれば、一旦放射線部門内の患者さんを集める場所を決めておくと、避難誘導係の人員も最小限にすることができると思います。


 **D**：なるほど。

 **A**：患者さんやスタッフの中に負傷者が出ることもありますよね。トリアージってどうしたらいいでしょう？


 **B**：被災状況の確認の中に傷病者の有無の確認がありますよね。これも病院の体制によると思いますが、トリアージと限定せずに、傷病者の傷病の程度を誰が評価するか、どこで手当てをするか、移動手段なども検討しておかないといけないですよね。


 **A**：実際の震災時を想像すると具体的な心配事がたくさん出てきますよね。


 **B**：誰かがやってくれるという考えではマニュアルになりませんよね。自分がその状況下で何をするかを示してあげるのがマニュアルだと思います。


 **D**：初期対応についてはどのような状況を考えなくてはいけないか、イメージができました。


災害時診療については何を準備するのでしょうか。


 **C**：「災害時診療」という言葉が適当か分かりませんが、ここで議論している「災害時診療」とは、震災によって怪我などをした患者さんへの診療です。放射線部門では、「使用する医療機器の準備」「人員」「検査依頼方法」などについての記載が必要だと思います。

 **A**：前提として、病院の災害対策本部がどのような診療体制を実施するかを宣言を確認する必要があります。ここでは、傷病者の診療を実施するという想定で考えていきましょう。「使用する医療機器の準備」って、何を準備すればいいのでしょうか？


 **B**：撮影機器の動作確認、画像閲覧方法の確認は必要ですね。被災状況によっては、想定していた医療機器が使えない場合もあるかもしれません。代替として使用する撮影室が救急外来以外の場合、撮影室への案内方法も決めてあげないといけません。医療機器やPACSや空調の電源が確保できているか（非常用電源など）は平時に確認しておかないと、使用中に緊急停止などの事態も起きかねません。


 **A**：「検査依頼方法」についてはどうでしょうか？


 **B**：これも前提として、依頼医師に周知されていないと意味がありませんので、病院の災害対策マニュアルに記載しておいてほしい事柄ですよね。依頼元として可能性があるのは、救急外来と病棟や手術室ですね。


 **D**：撮影人員が少ない場合、他方から同時に撮影依頼が来たら困りますよね。例えば、撮影の順番が“3番目”でも、それが


“10分後”なのか、“1時間後”なのか、大まかに依頼側に伝わらないとトラブルになりそうな気がします。


 **B**：そうですね。だからといって、撮影の優先順位を技師が決めるのは難しいですよ。でも現実にはそのような状況が想像されるのであれば、事前に病院の災害対策委員会で検討してもらえよう提案してみるべきだと思います。


 **D**：そもそも「災害時診療」って、発災の時間が「通常診療時間帯」と「夜間休日」なのかでできることが大きく変わってくると思うのですが…。


 **C**：変わると思います。「通常診療時間帯」と「夜間休日帯」の対応は、それぞれ作成したほうがいいですね。


 **B**：放射線部門内で考えると、夜間休日帯は、従事している人数が少ないし、業務も限定されています。もし、自分が怪我をしたら何もできないですね。「通常診療時間帯」と「夜間休日帯」とでは、想定しうる事態がかなり異なると考えた方がいいですね。


 **A**：「職員の安否確認」についてはいかがでしょうか？


 **B**：病院内にいないスタッフの安否確認のことです。院内のスタッフは被災状況確認で確認をしますので、それ以外のスタッフのことです。夜間や休日などでは、院外のスタッフに登院してもらわないと診療が継続できないので、そのための情報収集という意味が含まれます。


 **A**：具体的にはどのような仕組みを作ればいいのでしょうか？

 **B**：最近は病院で安否確認システムを導入しているところもあるようですが、もし自分達で構築するとしたら、「自分の安否」「家族の安否」「登院の可否」「登院可能時間」などの情報を、収集できる仕組みを作ればいいと思います。

 **D**：安否確認で収集した情報は誰が取りまとめて、登院後の担当業務などは誰が整理するのがよいのでしょうか？

 **C**：「夜間休日帯」であれば、業務中のスタッフが少ないので、そんな余裕はないと思っておいたほうがいいと思います。

 **B**：インターネット経由で得られる情報ならば、必ずしも院内にいらなくても対応できるかもしれません。例えば遠方に住んでいて当面は登院できない人に後方支援的な役割として情報の整理をしてもらうことを検討してみるのもいいと思います。

 **C**：「通常診療時間帯」であれば、規模の大きな病院では放射線部門は比較的人員に余裕ができる部門かもしれません。院内にいないスタッフは、休暇中と夜勤のスタッフくらいでしょうから。安否確認が必要な人数も少ないですよ。放射線部門には必要な人員だけを残して、残りは病院内で応援を必要としている部門に派遣することも考えないといけないと思いますので、放射線部門の業務をコントロールするスタッフを数名配置するのもいいと思います。



①：マニュアルを作成するために調べないといけないことや考えておかないといけないことは沢山ありそうですね。



②：病院としての動きを病院の災害対策マニュアルで調べて、それに準じた放射線部門での動きをまとめたものが、放射線部門の災害対策マニュアルというように考えればイメージはつくと思います。それに加えてさまざまな事態を想像して、できるだけ“想定外の事態”を減らすためにも放射線部門の業務やシステムを把握している人が作成するべきだと思います。



③：今回は、「災害対策マニュアル作成の前に知っておきたいこと」をテーマに話し合っていました。具体的に調べる事柄や、考え方などを気兼ねなく話していただきましたが、次回は実際に災害対策マニュアルを作成する想定で「初期対応」の記載内容について具体的に話していただこうと思います。キーワードは「被災状況報告」と「使用する機器の確認」です。

今回のまとめ

「災害対策マニュアル作成の前に知っておきたいこと」

1. 病院の災害対策マニュアルを読んで、病院全体の動きを知る
2. マニュアルで使用する言葉の定義を明確にする
3. マニュアルは初期対応、災害時診療など、行動の段階ごとに区切って作成する
4. 通常の診療時間帯と夜間休日帯とでは行動できる人数が異なるため、それぞれの行動マニュアルを作成する

技師会入るなら今がチャンス！

令和5,6年度に限り

新入会（新卒、既卒を問わず）無料キャンペーン



東京都診療放射線技師会
新卒・既卒問わず会費
5,000円



0円

必要となる技師会費は

日本診療放射線技師会(JART) + 東京都診療放射線技師会(TART)

お得！

たとえば、技師免許取得年度に入会する者

JART（初年度会費5,000円+ **入会費無料**）

+ TART（~~5,000円~~） 今だけ0円 = 5,000円

JART年会費 5,000円のみでOK！

まだまだお得な情報が沢山！詳細はこちら→



HPへGo!



公益社団法人 東京都診療放射線技師会

練馬まつり2023体験記

東京武蔵野病院 飯塚雅子

今回、イベントスタッフとして初めて「練馬まつり」に参加させていただきました。

朝から雨が降りしきり中でのスタートとなりましたが、足元の悪い中、女性を中心にたくさんの方に立ち寄っていただきました。被ばくについての相談や、模擬ファントムを使った乳房触診体験を通じてのセルフチェックや乳がん検診の案内が主な担当で、子どもたちにはちょっとしたレントゲンクイズをやってもらいました。乳房触診体験では、多くの方が興味津々で積極的に参加してくださり、「乳がんの“しこり”ってこんな感じなんですね!」「検診で“しこりありますか?”って聞かれるけれど、何がしこりか分からなかったの、今日知れて良かった

です」といった感想をいただきました。中でも印象的だったのが、若いご夫婦で参加され、ご主人も一緒になって熱心に触診体験をしてくださり、質問もしてくださったことです。健康に対する意識が高く、ご夫婦で検診について考える姿勢に感銘を受けました。また、子どもたちは胸や手のX線画像やCT・MRI画像のクイズに、目をキラキラさせながら答えてくれていて微笑ましかったです。

このイベントを通じて、多くの方の健康に対する意識を高め、乳がん検診の大切さを伝える機会をいただきました。今回、少しでも誰かの健康に寄り添えることができたら嬉しいと思います。

練馬まつり2023体験記

帝京大学医学部附属病院 茨木裕美

今年の「練馬まつり」に東京都診療放射線技師会の地区委員として、広報活動に初参加させていただきました。生憎の天候でしたが、長谷川広報委員長をはじめとする委員の皆さんの呼び込みのおかげもあり、多くの方が足を止めてくださいました。模擬ファントムを用いた乳房の「しこり」触診体験をしていただいたり、医療被ばくに関する相談を受けたり、レントゲンの画像を使用したクイズを出したりしました。医療用語を可能な限り使用せずに説明することに苦労しました。

私が印象に残っているのは、医療関係の職業に興

味があると言っていた中学1年生の女の子2人組です。ドラマ『ラジエーションハウス』で診療放射線技師という職業を知ったそうで、仕事に関していくつかの質問にお答えしました。ドラマの影響力の大きさに歓心を得ると同時に、将来学会などで再会できたら嬉しいとも思いました。

今回の活動を通して、放射線や診療放射線技師について正しく知っていただくことや、がん検診受診を推進する活動の重要性を改めて感じました。この活動がどこかで誰かの役に少しでも立つことを願い、体験記の筆をおきます。

練馬まつり2023体験記

帝京大学医学部附属病院 西郷洋子

今年の「練馬まつり2023」にてTARTの広報活動に初参加させていただきました。午後には天候も回復し、多くの来場者に立ち寄っていただきました。乳房触診体験では、模擬ファントムに恐る恐る触れている姿が印象的でした。体験を通して、「しこり」とはどういうものか、正しいセルフチェックの方法を学ぶことができ、大変勉強になったと言っていた時は嬉しかったです。中には、「脳動脈瘤があるけれど血管内治療と開頭クリッピング術とどちらの治療成績が良いか？」というような専門的な質問

をしてきた方もおり、これからの診療放射線技師には、被ばく相談はもちろんのこと、医療全般にも精通していることが求められているのではないかと感じさせられました。それだけ診療放射線技師への期待値が大きくなってきたのではないのでしょうか。

出展者として来場者の反応をリアルに感じられるこのようなイベントを通して、これからも放射線を使用した検査の必要性や正しい知識を伝えていく重要性、広報活動の意義を理解することができました。



中央区健康福祉まつりに参加して

東京通信病院 根本祐子

今回初めて中央区健康福祉まつりに参加させていただきました。

私は主に乳がん模擬ファントムを使用した触診体験を担当しました。参加された方に実際にファントムに触れていただくことによって、自分自身で触れてみるきっかけになったのではないのかなと思います。また、乳がんの定期検診について伺ってみると定期的に行かれている方、行っていない方、行っていたけど行かなくなってしまった方などさまざま

でした。乳がん検診ついて疑問に思っていることなど直接お話を聞くことができ、診療放射線技師としてどのように啓発をしたら、たくさんの方に検診に行っていただけるのか考えさせられました。

最後にコロナ禍では中々お会いする機会が減っていた他施設の方々と交流することができ、とても有意義な時間を過ごせました。また機会があれば次回も参加したいと思います。



こ え

OTAふれあいフェスタ体験記

帝京大学医学部附属溝口病院 北山和輝

今回、OTAふれあいフェスタ2023に参加させていただきました。

われわれ、東京都診療放射線技師会のブースでは、乳腺ファントムの触診体験と超音波による骨密度測定を行いました。私は骨密度測定を担当致しました。

骨密度測定には数多くの方々に来ていただき、老若男女問わず幅広い世代の方々に興味を持っていた感じました。測定に来た理由はいくつかあり、そもそも骨密度測定を行ったことがない方、女性ホルモンの分泌低下の時期を迎えて骨密度が気

になっている方、普段運動をしていないため骨密度に自信のない方など、さまざまな理由で測定に来ておりました。結果の説明を受けた後は、食事や運動の意識を変えようとする方が多いように感じられました。

今回の体験で、骨密度に対してどのように思っているのかを直接聞くことができ、また若い世代の方も興味を持っていることを知り、とても良い経験になりました。このような機会を作ってください、ありがとうございました。

大田区OTAふれあいフェスタに参加して

東邦大学医療センター大森病院 後藤あかり

11月4日にOTAふれあいフェスタ2023に参加し、乳腺ファントムによる触診体験に携わりました。以前参加したのは新人の頃。寒さに震え、緊張しながら地域の方と接していたことを思い出します。そこから年月が経ち、全く寒さを感じないほどの恵まれた天候の中、日々の医療現場の経験を糧に地域の方と関わることができました。

2日間で18万人も集まる活気あふれるイベントの中で、今回は屋外の緑のエリアでの開催とあって、多くの方が骨密度計測と乳腺ファントムによる触診体験に参加されました。地域の方とお話する中で、

乳がん検診を受けている方もいれば、全く関心のなかった方、また、今現在気になるしこりがあるという方もいました。乳がん予防の考え方として、自分の乳房の状態に関心を持ち生活していく“ブレスト・アウェアネス”の啓発が進められています。この指針に基づき、乳房のセルフチェックの習慣をつけ、検診に行くきっかけを提供することの大切さをOTAふれあいフェスタを通じて改めて実感しました。今後もより多くの方が乳がん予防に関心を持ち、検診に行く一步を踏み出せるようになることに期待し、働きかけていきたいと思います。

こ え

「大田区OTAふれあいフェスタ」に参加して

昭和大学病院 牧田隆太郎

初めてのOTAふれあいフェスタで、私は東京都診療放射線技師会のブースで骨密度測定を担当しました。開始と同時に長い行列ができ、参加者からは「毎年このOTAフェスタで骨密度を測定するのが楽しみです」と笑顔で話しかけられ、初めこそ緊張しましたが、地域の皆さまとのやりとりを通じ

てリラックスすることができました。そこから食事改善や運動のアドバイスもできるようになり、相談者から感謝の言葉もいただきました。地域のフェスタ参加で病院内では得られない多くの人々とのつながりができ、非常に有意義な一日でした。



「東村山市民健康のつどい」に参加して

公立福生病院 土屋由貴

「東村山市民健康のつどい」が2023年11月11～12日の2日間で開催され、私は11日の方に参加させていただきました。風も強く寒い日でしたが、産業まつりも開催されており大変な賑わいを見せていました。

「東村山市民健康のつどい」では検診窓口、乳がん・大腸がんに関するクイズコーナーや資料展示がされており、東京都診療放射線技師会では乳腺ファントムを用いたしこりを探す触診体験や、セルフチェックのポイントを示したパンフレット配布などを行いました。ブースを開く前に、乳腺ファントムのしこり探しを初めて体験しましたが意外と難しいと感じました。

技師会の活動として、市民の皆さんに乳がんの触診体験をしていただきながら自己検診の方法や大切さ、乳がん検診受診の必要性などを説明させていただきました。お子さまと一緒にやパートナーと一緒に参加してくださった方も多く、年齢を問わず多くの方々に参加していただきました。実際に体験された方々より、「触診体験ができてよかった」や「自分の周りに乳がんが多い」、「自己検診やってみます」など多くの声をいただき、このような活動の大切さを改めて実感し、今回の技師会活動に関わることができてよかったと思いました。

今後もこのような活動が開催され、多くの方々に広まり市民の健康促進に役立てればと思います。



超音波画像研究会

エコーセミナー

超音波画像検査において疾患の鑑別に迷うことは多々あります。それには疾患を深く知り、多くの症例を経験すると同時に、所見について正しく理解していることも重要です。今回は腎臓・尿路系に着目して、走査の基本から高頻度・レアな症例まで押さえておきたい検査のツボについて、河本先生にご講演いただきます。

日 時：2024年3月6日（水）19時00分（受付：18時30分より）

会 場：東京都診療放射線技師会研修センター

（東京都荒川区西日暮里2-22-1 ステーションタワー505号）

テ ー マ：『腎・尿路系の検査のツボ ～基本走査から高頻度・レアな症例まで～』

講 師：東京医科大学病院画像診断部 河本 敦夫 先生

参 加 費：会員 500円／準会員・非会員 1,000円／新入会 3,000円（入会金含む）／学生無料

※事前の申し込み、登録は不要です。直接、会場までお越しください。

超音波画像研究会ホームページ：

<http://us-image.kenkyuukai.jp/information/>

お問い合わせ先：超音波画像研究会事務局

E-mail：us.image.workshop@gmail.com

日本診療放射線技師連盟

2023 No. 12 ニュース

(通巻No.92)

発行日 令和5年12月28日
発行所 日本診療放射線技師連盟
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL.070-3102-1127 FAX.03-6740-1913

連盟活動報告

- ① 11月29日(水) 第2回 日技連／日放連 連盟定期連絡懇話会開催
日本臨床検査技師連盟(日技連)と日本診療放射線技師連盟(日放連)それぞれの活動状況報告が行われた。
- ② 12月7日(木) 国民に最善の医療を届けるために診療放射線技師を支援する議員連盟(放射線技師議連)第3回総会に出席



事務局からのお願い

畦元将吾代議士後援の自民党入党は右下のQRコードから登録できます。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc6LOGAou4WExPnK6qa680kETqv8FyMrjKAAqOvk65t29ANqA/viewform>

本連盟の年度は1月から12月となっております。

2021年第2回理事会において、年会費は一律2,000円となりました。

また、寄付によるご支援も随時受け付けております。

郵便局 備え付けの振込取扱票を使用してお振込みの場合

→ 口座記号・口座番号 00100-2-667669

ゆうちょ銀行に直接お振込みの場合

→ 店名(店番):019 当座預金

口座番号:0667669

加入者名 日本診療放射線技師連盟



会員動向

2023年4月～12月期

年 月	月末会員数	新 入	転 入	転 出	退 会
2022年度末集計	2,448	210	38	31	90
2023年 4月	2,477	26	8	3	2
2023年 5月	2,512	32	5	1	1
2023年 6月	2,549	36	5	1	3
2023年 7月	2,584	32	4	1	0
2023年 8月	2,606	25	0	1	2
2023年 9月	2,620	15	0	0	1
2023年10月	2,642	29	2	4	5
2023年11月	2,652	15	4	4	5
2023年12月	2,658	13	3	1	9

東 放 見 聞 録

BABYBABY

先日、我が家に待望の第二子がやってきました。

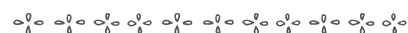
7年ぶりに新しい命を家族として迎えたとき、その小さな存在に対する愛情と不安が入り混じった感情がありました。さっそく家に帰ってきた初日、久しぶりにおむつ交換をしていたら元気なシャワーをしてくれました。ちなみに第一子は女の子。第二子は男の子。周りからは「男の子は大変だよ～」と言われましたが、このことか～と笑いながら悪戦苦闘中。

幸いにも職場から1カ月の育児休暇をいただきましたので、新しい生活様式に慣れるために生活リズムも見直しました。以前は、子どもを寝かしつけた後に、夜な夜な資料作成をしたり、ランニングをしたりしましたが、現在は3時間おきの授乳とおむつ替え。毎日が夜勤のようなものですから、睡眠不足にならないように全員20時就寝にチャレンジ。

すべてが計画通りにいかないのが子育てと思っていますが、ハプニングも楽しむためにも家族でしっかりと触れ合ってコミュニケーションをとりながら、笑顔と睡眠に満ちた1年にしていきたいです。皆さまにとって幸せな1年になることを願います。



P.N. ポテトフライには
マヨネーズ派



News

2月号

会長挨拶

本日もご多忙の中、本会理事会にご参集いただきありがとうございます。先月開催されたペイシェントケア学術大会に関して、皆さまのご協力により成功裏に開催できたことを心より御礼申し上げます。大会の準備では、学術委員会の市川理事や教育委員会の小林理事、情報交換会を担当した宇津野理事に感謝申し上げます。今年も残り1カ月を切ったが、本日も皆さまの活発なご意見をお願いしたい。

理事会定数確認

出席：15名、欠席：2名

前回議事録確認

前回議事録について確認を行ったが修正意見はなかった。

報告事項

- 1) 江田哲男 会長
・活動報告書に追加なし。
- 2) 副会長
関 真一 副会長
・活動報告書に追加なし。
野口幸作 副会長
・活動報告書に追加なし。
- 3) 業務執行理事
総務：鈴木雄一 理事
・活動報告書に追加なし。

日 時：2023年12月7日（木）
午後7時00分～8時00分

場 所：インターネット回線上

出席理事：江田哲男、野口幸作、関 真一、鈴木雄一、宇津野俊充、浅沼雅康、高野修彰、竹安直行、市川篤志、小林隆幸、原子 満、鮎川幸司、関谷 薫、布川嘉信

出席監事：野田扇三郎、白木 尚

指名出席者：保川裕二（第1地区委員長代理）、上田万珠代（第4地区委員長）、中田健太（第5地区委員長）、伊佐理嘉（第6地区委員長）、富丸佳一（第7地区委員長）、大津元春（第8地区委員長）、西郷洋子（第9地区委員長）、澤田恒久（第10地区委員長）、名古安伸（第11地区委員長）、宮谷勝巳（第14地区委員長）、今尾 仁（厚生調査委員長）、村山嘉隆（総務委員）、青木 淳（総務委員）、新川翔太（総務委員）

欠席理事：渡辺靖志、増田祥代、長谷川雅一（議事開始前に参加）

欠席監事：なし

議 長：江田哲男（会長）

司 会：野口幸作（副会長）

議事録作成：村山嘉隆、青木 淳、新川翔太

庶務：宇津野俊充 理事

・活動報告書に追加なし。

4) 専門部委員会報告

・特になし。

5) 各委員会報告

・特になし。

6) 地区委員会報告

・特になし。

7) その他

・市川篤志 学術委員長

ペイシェントケア学術大会に関して、皆さまのご協力により盛会に終了した。大会の参加人数について報告する。会員85名、非会員2名、一般参加者2名、招待者3名、SRTAから6名、講師の方が6名、学生6名で合計110名の方に参加していただいた。情報交換会は会員64名、一般参加者1名、招待者3名、SRTAから6名、講師の方が6名、学生4名で合計84名の方に参加していただいた。皆さまのご協力、ご支援に心より厚く御礼申し上げます。次回も引き続きご協力をお願いしたい。

議 事

1) 事業申請について

①2023年度 第6地区研修会

テーマ：『骨粗鬆症診療の夜明け』 - 胸部X線から骨の状態を評価するAI医療機器による社会的インパクト -

日 時：2024年3月1日(金) 19:00～20:30
場 所：Web開催(Zoom) TART研修センター
上記について審議した。

【承認：15名、保留：0名、否認：0名】

竹安直行 情報委員長：

申し込みは1月掲載という認識でよいのか。

伊佐理嘉 第6地区委員長：

1月掲載を目指しており、原稿を作成中である。

浅沼雅康 編集委員長：

1月掲載であれば来週早々には原稿をいただきたい。未掲載の項目は削除して確定している箇所をまず掲載し、2月号の会誌で修正でも構わない。

伊佐理嘉 第6地区委員長：

講師の先生に原稿を確認していただき、浅沼編集委員長にご連絡差し上げる。

②2023年度第9地区研修会(Web)

テーマ：STA(R)T画像 –これから始める緊急時画像報告–

日 時：2024年3月8日(金) 19:00～20:30
場 所：Web開催(Zoom) TART研修センター
浅沼雅康 編集委員長：

1月掲載となっているが、原稿の進捗状況を伺いたい。

西郷洋子 第9地区委員長：

来週中には送付したいと考えている。

浅沼雅康 編集委員長：

掲載できるよう善処するが、本来であれば先月末が原稿締め切りである。既に会誌は目次の作成が終了しており、後から差し込むと印刷会社に多大なご迷惑がかかる。事前にご連絡をお願いしたい。

鮎川幸司 第13地区委員長：

申し込み期間が3月6日までとなっているが、リマインドメールを送信するのに開催間近で問題ないか。講師の先生が著名なため、期限間近まで申し込みが想定される。

西郷洋子 第9地区委員長：

ご指摘感謝する。それでは申し込み期限を2月29日までに変更させていただきたい。

上記について審議した。

【承認：15名、保留：0名、否認：0名】

③2023年度第1回災害対策研修会

テーマ：緊急被ばく医療研修会 –3.11を風化させないために–

日 時：2024年3月9日(土) 13:00～16:30
場 所：東京都診療放射線技師会 研修センター
上記について審議した。

【承認：15名、保留：0名、否認：0名】

2) 選挙管理委員会について

鈴木雄一 総務委員長：

選挙管理委員を各支部から1名選出していただき感謝する。今回、代議員選挙と役員選挙が行われるので選挙管理委員も更新という運びになる。選出された5名の承認をいただき、選挙管理委員会の活動を始めていただきたい。

上記について審議した。

【承認：15名、保留：0名、否認：0名】

3) 新入退会について

11月：新入会15名、転入4名、転出4名、退会5名

【承認：15名、保留：0名、否認：0名】

地区質問、意見

第13地区：

Web開催では、参加者へ申込時の名前に変更をお願いしている。しかし、お願いをしても変更しない参加者が数名存在する。この場合、講師のスライドや講演を保護する観点から、退出をさせてもよいだろうか。

鈴木雄一 総務委員長：

いきなり退去ではなく、リマインドメールの際にご協力くださいという言葉に記載して、順守していただけない場合は強制退去いただく場合もありますという内容を統一して載せるといった回答が専門部委員会からあがった。

小林隆幸 教育・国際委員長：

名前の変更方法が分からない方もいるかもしれないので、可能であれば開始前に名前変更方法を載せ、スマートフォンからの変更方法についても記載して、今後TART全体でのやり方の整理をしたほうがよいと思われる。

野口幸作 副会長：

今後Web研修のやり方も検討していくことを踏まえて、名前変更の広報を会誌掲載、ホームページ、研修会開始前にしていただきたい。順守していただけない場合は強制退去を行うことも構わないとする。

第13地区：

SRTA派遣演題に関して、地区委員会内で広報を行った。国際委員会に所属する委員より、日程が変わっていると思う、と指摘あり。理事会議事録では3月21日～24日でインターナショナルセッションは23日となっている。国際委員からは3月14日～17日でインターナショナルセッションは16日と聞いた。どちらでしょうか。

小林隆幸 教育・国際委員長：

理事会が終了後にSRTAから正式に3月14日～17

日で行われるという案内が来たので会誌の12月号の募集の案内には3月14日～17日で記載している。ご理解ご協力をお願いしたい。

連絡事項

高野修彰 渉外委員長：

来年度の総会での表彰者の選定をお願いしたい。理事会資料に提出書類があるので各委員会で検討をお願いしたい。

小林隆幸 教育・国際委員長：

会誌12月号にSRTA学術大会の派遣応募のお知らせを掲載した。2演題までになるが広報のご協力をお願いしたい。

江田哲男 会長：

SRTAより多くの方に来ていただきたいとのことなので、SRTAへの参加の広報もお願いしたい。また改めてアナウンスさせていただく。

布川嘉信 入会促進副委員長：

現在、チラシとホームページを作成している。チラシは専門部委員会に確認していただき、概ね完成して印刷に進めていく予定となる。ホームページに関してはホームページ班で作成し、情報委員に確認いただき見積もりと掲載について相談する予定となる。作業が進行した際には報告させていただく。

宇津野俊充 庶務委員長：

1月12日に開催予定の「新春のつどい」についての案内を作成した。会費は以前と同じ5千円を予定している。案内を各委員長に送るので、委員、会員の方々に広報をお願いしたい。各メーカーの方々にも広報をお願いしたい。

今尾 仁 厚生調査委員長：

10月より江田会長から、厚生調査委員長を引き継ぎ担当することになったので宜しくをお願いしたい。アンケート調査について、本年度は放射線室長宛のアンケートを実施している。12月4日から回答開始で12月31日までの実施を予定しているので、各御施設でのご通知をお願いしたい。

野口幸作 副会長：

Web研修会開催の流れについて、前回の理事会で研修会におけるウェビナーの使用希望があった。それをもとに、Web研修会開催までの流れ(案)の資料を作成した。

研修会申し込みの締め切りを1週間前に設定し、参加人数によってウェビナーを使用するかZoomを使用するか判断する。その後にURLを作成して配信する。

事前にURLを配信するのも良い。後からURLを変更するのは問題が起こる可能性があるので望ましくない。参加者が研修会を忘れることもあり得るので、研修会の1週間前あるいは2～3日前にリマインドメールをする。作成した資料を参考にさせていただきたい。

伊佐理嘉 第6地区委員長：

専門部委員長と地区委員の兼任は可能か。

→本人が良ければ問題ない。

江田哲男 会長：

JARTの上田会長と若手会員の懇談会を企画している。日程は3月1日18時からの予定。若手会員で正式にJARTから会費が出るのは2名のみだが、それ以外でも参加希望の会員がいれば追加の参加も可能。立候補を含め、地区委員長推薦でも良いので、次世代の方々の声を聞きたい。申し込み方法は改めて案内をする。各地区、委員会で有望な若手会員を推薦していただきたい。

JSRTの東京支部と合同で学術大会の開催に向けて取り組んでいる。8月に三役同士で会議を行った。来年の2月もしくは3月にお互いの学術担当を招いて会議を開催する予定。本年度中に開催に向けてどのようなフローチャートにするか、テーマなどについて話を進めていく予定。

事務を担当している引地さんに慰労金をお渡しする。

浅沼雅康 編集委員長：

12月19日16時に新春座談会を行う。事務所に顧問2人と江田会長が参加する。

2月号の会誌に内容を掲載する予定。

今後の予定について(総務委員会)

鈴木雄一 総務委員長：

各地区の人数を載せた資料(9月30日時点)を配信した。代議員選挙に関して、地区委員30名で1人の代議員、余りは16名以上でプラス1の議席になる。代議員数は86名まで増加した。選挙管理委員会より1月の会誌で代議員の選挙の告示が出され、2月中に立候補届受理、3月中に選挙が行われる予定。

12月の専門部委員会は1週間前倒しにしている。提出物の締め切りは12月18日になる。事業申請、予算、事業計画は早めに送っていただきたい。仕事納めは12月28日、事務所開きは1月4日で、理事会は1月5日(金)に開催する。

以上

ラジオアイソトープの
エキスパートとして、
人々の健康と医療の発展に
貢献してまいります。



PDRファーマ株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋2-14-1 兼松ビルディング
<https://www.pdradiopharma.com> TEL 03-3538-3624

2022年5月作成

学術講演会・研修会等の開催予定

日時や会場等の詳細につきましては、会誌及びホームページでご案内しますので必ず確認してください。

2023年度

1. 学術研修会

第23回メディカルマネジメント研修会 未定

☆第21回ウインターセミナー 2024年2月3日(土)

☆2. 日暮里塾ワンコインセミナー

3. 集中講習会

第13回MRI集中講習会 未定

☆4. 支部研修会

多摩支部研修会 Web開催 2024年2月2日(金)

城南支部研修会 Web開催 2024年2月20日(火)

5. 地区研修会

第12地区研修会 Web開催 2024年2月8日(木)

第6地区研修会 Web開催 2024年3月1日(金)

第9地区研修会 Web開催 2024年3月8日(金)

第16地区研修会 Web開催 2024年3月22日(金)

6. 専門部委員会研修会

第1回災害対策研修会 2024年3月9日(土)

☆印は新卒かつ新入会 無料招待企画です。

(新卒かつ新入会員とは、技師学校卒業年に技師免許取得し本会へ入会した会員をいう)



トーテックアメニティは、医用画像管理システム（PACS）や電子カルテを中心とした医療情報システム、病院ネットワーク構築、医療機器販売などを通じて、医療現場を支えています。

当社では、10年間にわたるISO9001の運用をベースに、2009年から実業務にマッチさせた当社独自の品質管理基準「TQMS」を適用。品質と生産性の向上に向けた取り組みを実践中です。

もちろん、情報セキュリティマネジメント体制も構築していますので、非常に重要な個人情報を扱う医療現場の情報管理も徹底しながら、システム構築・運用が可能です。



トーテックアメニティ株式会社

公共医療システム事業部 医療東日本営業部

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町 580 番（ソリッドスクエア西館 8F）
TEL:044-540-3806 FAX:044-522-7801 URL:<https://www.totec.jp/>



公益社団法人東京都診療放射線技師会 研修会等申込書

研修会名	第 回		
開催日	年 月 日() ～ 月 日()		
会員/非会員 (必須)	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 一般 ※ 日放技会員番号(必須) [] <input type="checkbox"/> 新卒かつ新入会の方はチェック		
所属地区	第 地区 または 東京都以外 [] 県		
ふりがな			
氏 名			
性 別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性		
連絡先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 施設 ⇒ 施設名 []		
	TEL (必須)		
	FAX		
	メール (PCアドレス)		
備 考			

FAX 03-3806-7724

公益社団法人東京都診療放射線技師会 事務所

登 録 事 項 変 更 届

公益社団法人東京都診療放射線技師会 殿

公益社団法人日本診療放射線技師会 殿

会 員 番 号	
氏 名	印
氏名（カタカナ）	
性 別	男性 ・ 女性
生 年 月 日	昭和 ・ 平成 年 月 日生
メールアドレス	

下記のとおり、登録事項の変更をお願い申し上げます。

□氏名の変更

改姓（変更後の氏名）	
------------	--

□送付先変更

現在の送付先	勤務先 ・ 自宅
新 送 付 先	勤務先 ・ 自宅

□住所等の変更

新 勤 務 先	勤 務 先 名	部署
	勤務先所在地	〒 ー
	電 話	
旧 勤 務 先		
新 自 宅	現 住 所	〒 ー
	電 話	
旧 自 宅 住 所		

□その他

通 信 欄	
-------	--

受 付
確 認年 月 日
年 月 日 印

Postscript

20 20年新型コロナウイルスの影響で、さまざまな対面型のイベントが自粛になりました。大小さまざまな学会、研究会はもとより会食も自粛となり多くの飲食店も休業となりました。

その際、WebexやZoom等のオンライン会議が一気に広がりました。これまでのオンライン会議はカメラやマイク、スピーカーなどはある程度のクオリティが必要でしたが、それらがPC内蔵のもので会議が可能な環境となりました。そして研修会や講義など大人数が参加するようなものでもストレスなく開催できる環境が広がりました。

それは日中の会議等だけではなく夜の情報交換（飲み会ともいう）にも幅広く使われるようになりました。

対面開催ができなくなり、対面開催の良さを再認識しました。しかしオンライン開催の良さも知りました。移動する必要がないため全国どここの研修会でも参加できる、オンデマンド配信が

あれば自分の都合の良い時間に視聴できるなど、これまで開催地や日時に関係で参加を断念していたものに参加できるようになりました。

会員の皆さまを含めた方々のご努力もあり、4年たった現在コロナ禍前に戻りつつあります。対面開催の学会等も増えてきました。しかし研修会等ではオンラインの利点を知ってしまったため、今後は対面のみではなくオンライン配信を加えたハイブリッドでの開催が求められるのかもしれません。

夜の情報交換にオンラインを活用することで、コロナ禍に於いても全国規模での交流が可能となり、これまでとは少し違った形で人脈が広がっていったように感じました。

ただ飲みたかっただけなのかもしれませんが（笑）。

（すえぞう）

■ 広告掲載社

富士フイルムメディカル(株)
コニカミノルタジャパン(株)
キヤノンメディカルシステムズ(株)
光製薬(株)
PDRファーマ(株)
トーテック アメニティ(株)

東京放射線 第71巻 第2号

令和6年1月25日 印刷（毎月1回1日発行）

令和6年2月1日 発行

発行所 東京都荒川区西日暮里二丁目22番1 ステーションプラザタワー505号
〒116-0013 公益社団法人東京都診療放射線技師会

発行人 公益社団法人東京都診療放射線技師会
会長 江田 哲 男

振替口座 00190-0-112644

電話 東京 (03) 3806-7724 <https://www.tart.jp/>

印刷・製本 株式会社キタジマ

事務所 執務時間 月曜～金曜 8時30分～16時00分

案内 ただし土曜・日曜・祝日および12月29日～1月4日は執務いたしません
TEL・FAX (03) 3806-7724

編集スタッフ

浅沼雅康

岩井譜憲

森 美加

高橋克行

田沼征一